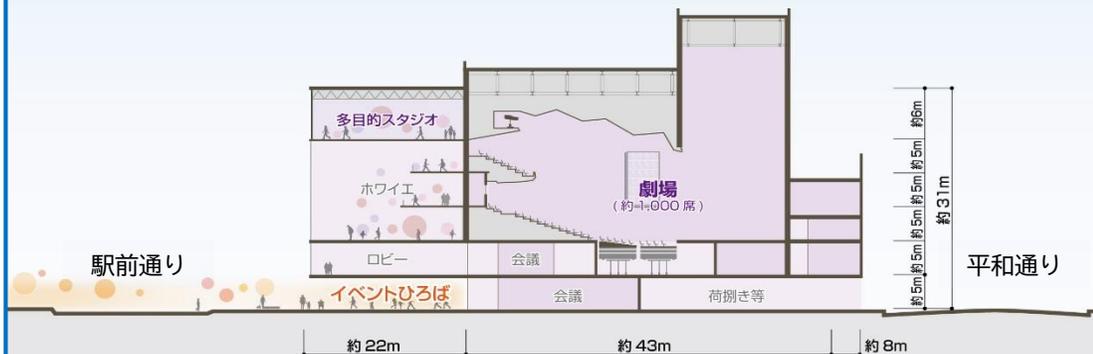


施設と利用シーンのイメージ

■ 劇場ホール単独案（A案）イメージ （公共棟の延床面積：約16,000㎡）



A-A' 断面イメージ

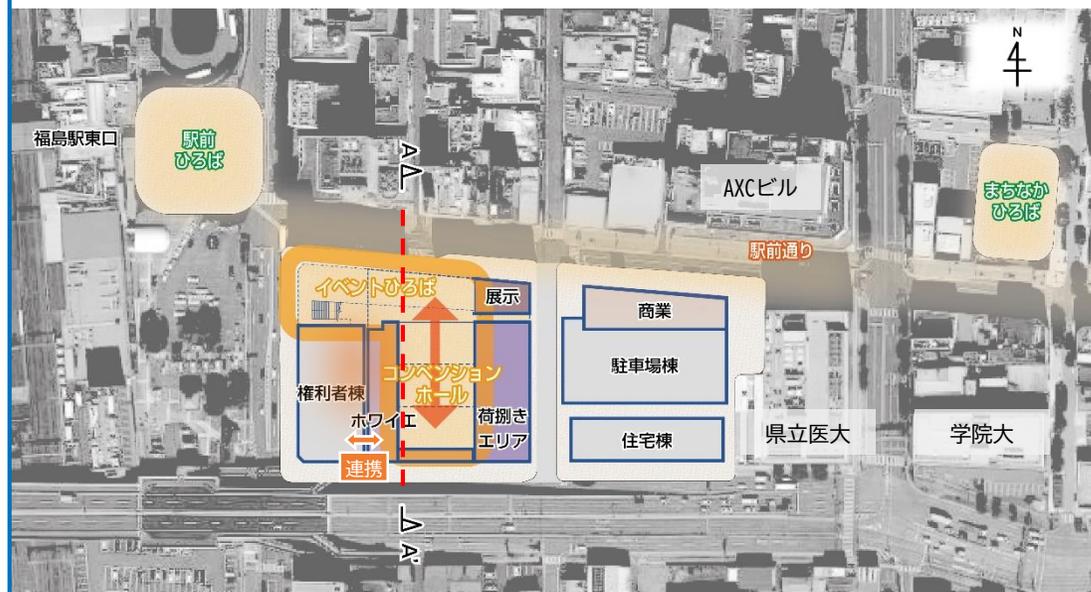
■ コンベンションホール単独案（B案）イメージ （公共棟の延床面積：約10,000㎡）



A-A' 断面イメージ



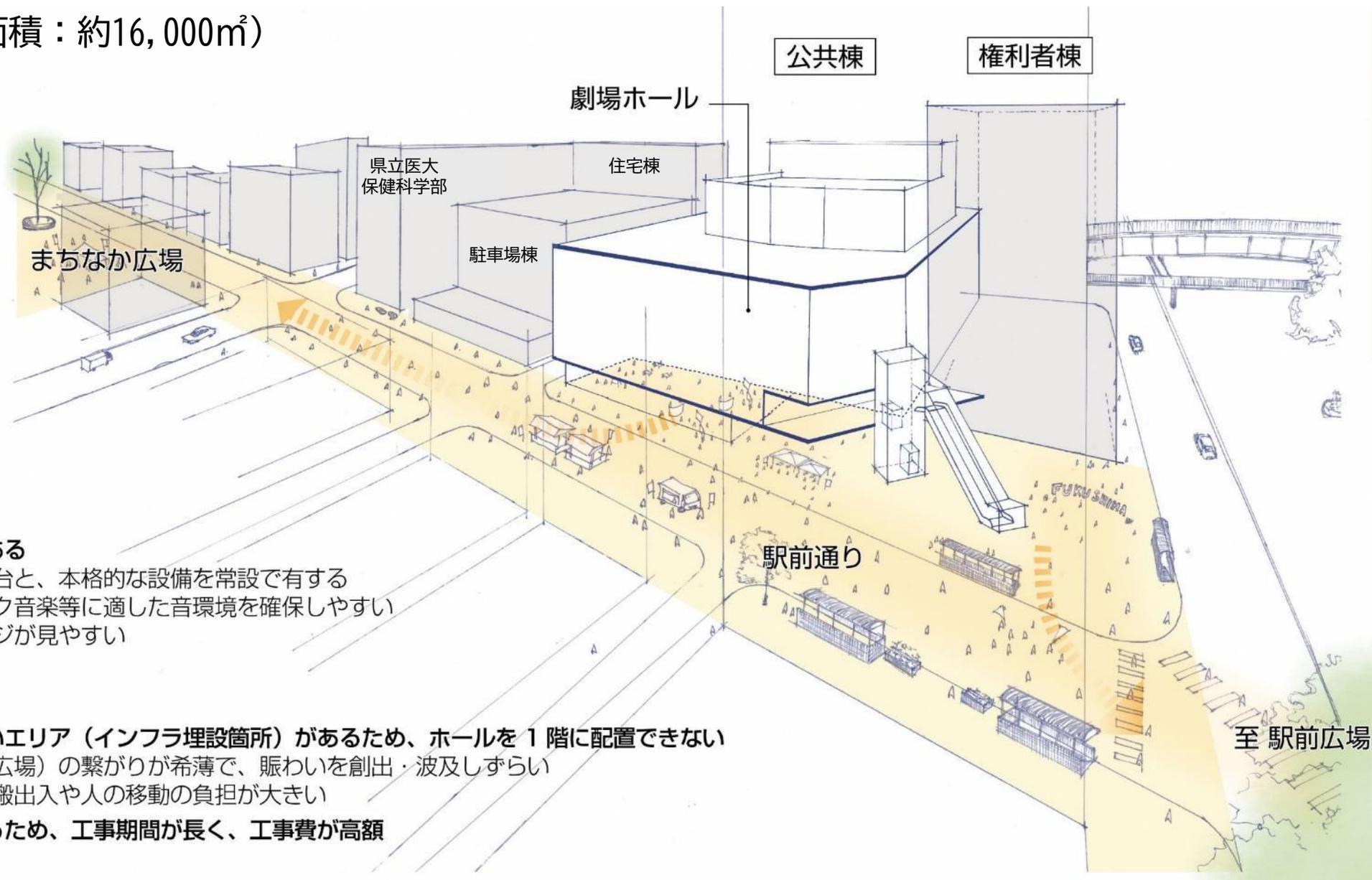
平面イメージ



平面イメージ

■劇場ホール単独案(A案) イメージ

(公共棟の延床面積：約16,000㎡)



メリット

- 劇場機能として高性能である
 - ・ 劇場として適切な広さの舞台と、本格的な設備を常設で有する
 - ・ 音響性能が高く、クラシック音楽等に適した音環境を確保しやすい
 - ・ 客席が段床のため、ステージが見やすい

デメリット

- 1階に構築物をつくれないうエリア（インフラ埋設箇所）があるため、ホールを1階に配置できない
 - ・ ホールと屋外（駅前通り、広場）の繋がりが希薄で、賑わいを創出・波及しづらい
 - ・ ホールが上階にあるため、搬出入や人の移動の負担が大きい
- ホールの構造が複雑であるため、工事期間が長く、工事費が高額



ライブ・コンサート



オーケストラ・吹奏楽



演劇・ミュージカル



ダンス・バレエ



桧枝岐歌舞伎 (南会津地方振興局HPより)

古典芸能



伝統芸能



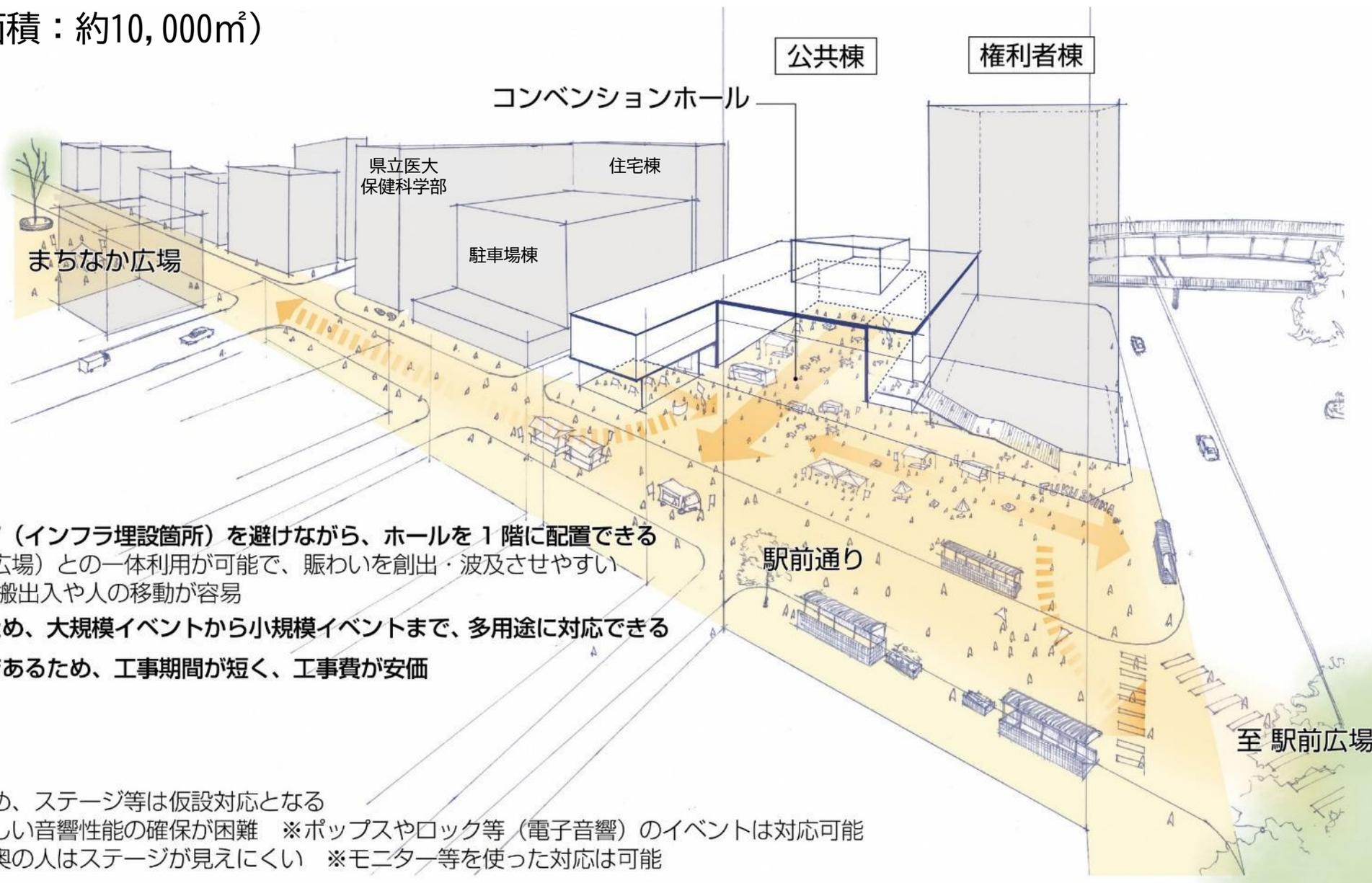
式典 (入学・卒業・表彰式等)



大会 (企業・団体等)

■コンベンションホール単独案(B案) イメージ

(公共棟の延床面積：約10,000㎡)



メリット

- 舞台装置等が不要なため、
構造物をつくれないうち（インフラ埋設箇所）を避けながら、ホールを1階に配置できる
- ・ホールと屋外（駅前通り、広場）との一体利用が可能で、賑わいを創出・波及させやすい
- ・ホールが1階にあるため、搬出入や人の移動が容易
- ホールを分割利用できるため、大規模イベントから小規模イベントまで、多用途に対応できる
- ホールの構造がシンプルであるため、工事期間が短く、工事費が安価

デメリット

- 劇場機能がA案より劣る
- ・常設の舞台を設置しないため、ステージ等は仮設対応となる
- ・クラシック音楽等にふさわしい音響性能の確保が困難 ※ポップスやロック等（電子音響）のイベントは対応可能
- ・段床の客席ではないため、奥の人はステージが見えにくい ※モニター等を使った対応は可能



コンベンション



企業製品展示会



物産フェア



車両展示会



eスポーツ



ギャラリー展示

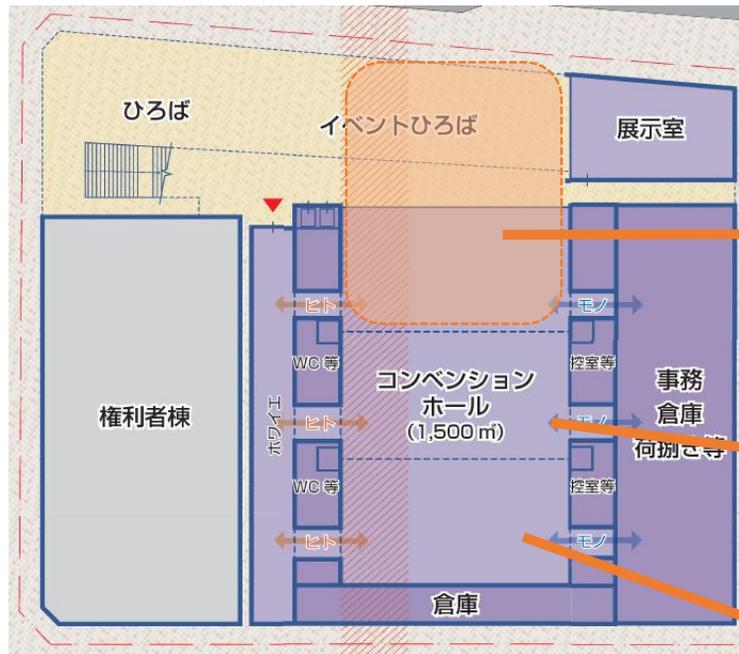


音楽イベント（屋外ひろば一体利用）

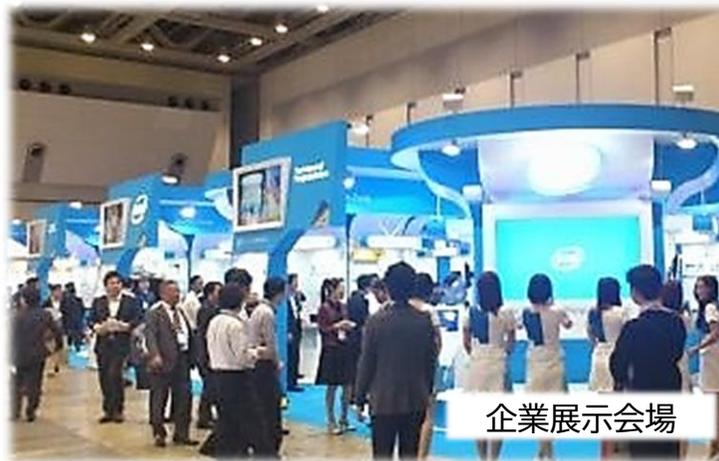


音楽イベント（屋外ひろば一体利用）

ホールの分割利用の一例



ひろばへ拡張可能



企業展示会場



バンケット会場



講演・セミナー会場

※3分割 (500㎡×3) のほか、2分割 (1000㎡+500㎡) も可

参考比較

施設	最大面積	収容人数 (円卓)	備考 (部屋)
エルティ	860㎡	520人	3室連結
サンパレス	634㎡	324人	
グリーンパレス	510㎡	400人	
辰巳屋 (旧)	730㎡	480人	3室連結



シンポジウム・フォーラム



企業セミナー・ミーティング



立食パーティー（ケータリング含む）



宴会（ケータリング含む）

展示室1(300㎡程度)／多目的スタジオ1(400㎡程度)／大会議室1(400㎡程度)／中小会議室4～6(50㎡～300㎡程度)／スタジオ2(50㎡程度)
※今後の設計により変更となる可能性あり

稼働率の試算 I

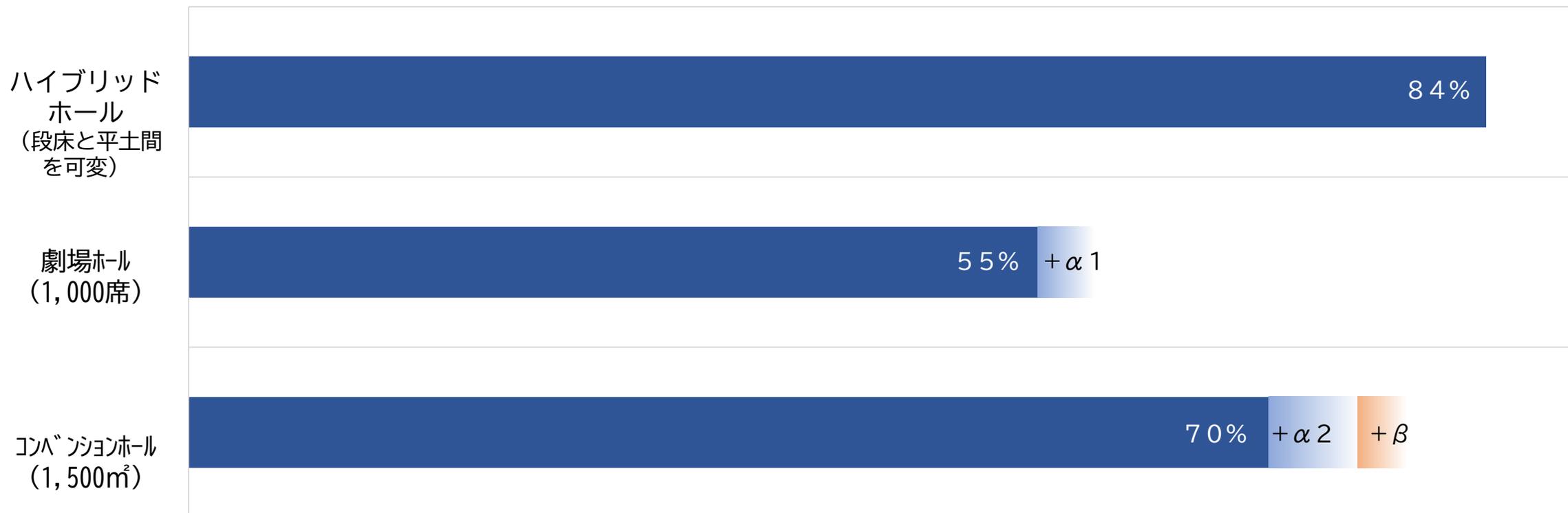
- ① ハイブリッドホールの目標稼働率は84%（既出。開館日数を他類似施設の平均である300日と仮定。）。
- ② 劇場ホール、コンベンションホールの稼働率は、規模が類似する県内外の施設の稼働率を参考とする。（施設運営者の主催事業を含む）
- ③ 駅周辺の民間会議施設の減少を踏まえ、需要の受け皿としての利用増加分を「 $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ 」として見込む。
※コンベンションホールでは分割利用により比較的小規模な会議・集会等にも対応できる分、 $\alpha 1 < \alpha 2$ と考えられる。
- ④ コンベンションホールの1階設置により、広場や通りと一体的に利用される利用の増加分を「 β 」として見込む。



※各ホールとも大会議室等でのバンケット利用が可能

稼働率の試算Ⅱ

- ① ハイブリッドホールの目標稼働率は84%（既出。開館日数を他類似施設の平均である300日と仮定。）。
- ② ①にて想定した利用日数等をベースに、劇場ホールとコンベンションホールの稼働率を試算。（施設運営者の主催事業は含まない）
 - ◆ 段床で開催可能な催事を劇場ホール利用日数へ、平土間で開催可能な催事（舞台機構を要さないものなど）をコンベンションホール利用日数へ、それぞれ算入
 - ◆ ハイブリッドでの平土間利用日数を段床利用日数に(劇場)、段床利用日数を平土間利用日数に(コンベンション)、稼働日数を勘案したうえで置き換えて算入
- ③ 駅周辺の民間会議施設の減少を踏まえ、需要の受け皿としての利用増加分を「 $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ 」として見込む。
 - ※コンベンションホールでは分割利用により比較的小規模な会議・集会等に対応できる分、 $\alpha 1 < \alpha 2$ と考えられる
- ④ コンベンションホールの1階設置により、広場や通りと一体的に利用される利用の増加分を「 β 」として見込む。



※各ホールとも大会議室等でのバンケット利用が可能